

## タウンミーティング2020 意見交換要旨

- 日時

令和2年6月27日（土） 13:30～15:45

- 会場

総合福祉会館・市役所・WEB

- 参加者

清元 秀泰 姫路市長

総合福祉会館 8人

WEB 8人

- ファシリテーター

和田 達也 姫路市市長公室長

- 意見交換の主な内容

【意見】私の校区では、市民活動推進課の協力により、令和元年度から地域活動充実支援事業に取り組んでいる。地域団体は後継者問題に苦慮している。地域が持続できるよう、各種団体の習慣や取り決め等を大胆に改革し始めているので、姫路市においても、フレキシブルな感覚で事業を推進してもらいたい。

【市長】地域活動充実支援事業に取り組んでいただく地域には、どのような形で住民が参画されると活力ある地域ができるかということの先例になっていただきたいと思っている。人口減少・高齢化により、各地域がそれぞれに問題を抱えており、工夫によりフレキシブルに対応することが大切だが、難しい問題である。事業を実施する地区においては、成功した取組だけでなく、うまくいかなかった取組についても検証していただき、他の地域にも良い施策が展開できるよう頑張っていたいただきたい。私自身は、地域コミュニティを再編し、老若男女、外国人などマイノリティの方も含め、地域で話し合いを持てるようなネットワークづくりに活路を見いだせないかと考えている。

【意見】今後10年間で少子・高齢化がますます進むと思うが、小学校が統廃合された場合、スクールバスを検討してもらえないか。

【市長】子どもの人数が少なくなり、小学校統合を考える際には、スクールバスの導入が必要だと思う。また、スクールバスを有効活用するため、空き時間は地域の交通結節点までのコミュニティバスとしての利用も考えてはどうかと思う。

- 【意見】一人暮らしの高齢者が増えると空き家も増えてくる。他都市の例も参考にして姫路市でも早急に対応してほしい。
- 【市長】地域の安全のためにも、空き家問題に取り組む必要がある。地域の人口減少を食い止めるため、空き家をリフォームして田舎に住みたい人にあっせんするような仕組みづくりが地域の活性化にもつながるのではないかと。
- 【意見】コミュニティ活動の担い手の育成が必要だと考える。連合婦人会に参加して研修に参加してもらうのが一番だと思うので、対策をお願いしたい。
- 【市長】連合婦人会の活動には感謝しており、頑張っている方々を支援しなければと思う。また、自治会活動においても女性の意見をどんどん出して、まちづくりに反映すべきだと考えている。女性や外国人などが参画しやすい仕組みをつくりたいが、一朝一夕にはいかないなので意見をいただきながら考えたい。
- 【意見】姫路市には他市に誇る立派な施設がたくさんある。さまざまな方法で発信することで、姫路市に来てもらうことができるのではないかと。
- 【市長】外国からの観光客は、これから1年は厳しいと思う。近隣市町・播磨全体の人との交流を促進し、姫路・播磨の食文化やすばらしさを地元の人から発信してもらうような市民活動を応援したい。
- 【意見】大規模自然災害や新型コロナウイルス感染症への対策について、市ホームページには詳細に書かれているが、幅広い世代の市民に情報が伝わっていないのではないかと。市民の中には、災害時に避難するかどうかの判断や、一人での避難が難しい人もいる。SNS等を駆使して情報を発信することで、若い世代を巻き込んで、若い世代が高齢者や障害者を支えられるようになればよいと思う。
- 【市長】避難所の3密対策や備蓄品のあり方などは検討しているが、確かに情報の発信力が弱い。最近は動画でメッセージを配信したり、英語のメッセージを発信したりと努力はしている。姫路市公式アプリ「ひめじプラス」には情報を集約しているので、活用してもらいたい。災害時の要援護者については、本人の了承のもと自治会ごとに登録する制度を設けており、地域の人や消防団等と共有し、早めの避難誘導等に役立てている。
- 【意見】新しい総合計画の策定は、現行の計画の検証を踏まえて行うべきである。政策をつくる際には社会分析を行い、不足しているところを充実させることが大切だ。姫路市は経済や観光を重要視されているように思うが、今回のコロナ禍で

多くの非正規労働者等の生活弱者が影響を受けている。そのサポートをしてほしい。

【市長】分析を行った上でのエビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング（証拠に基づく政策立案）は大変重要なことだと考えている。新しい総合計画は現行の総合計画も踏まえ、不足しているところを充実させるとともに、10年間の計画途中においても適宜修正を加えながら、中長期的にPDCAサイクルをまわすという手法を取り入れる。コロナ対策では、まず、国の施策を優先して行うと共に、大きく影響を受けたところを穴埋めするための支援を行ってきた。市民の皆さんが納得いかないところは、分析をして迅速に対応を進めていきたい。

【意見】私は人口減少社会における地域のあり方のモデルケースになりたいと思い、10年前から家島で活動している。最近は特に空き家を利活用した移住促進に力を入れており、家島空き家対策協議会では、昨夏から4名の移住を成功させている。すべての行政課題に行政が対応することは難しいと思うので、もっと地域に任せられるところは任せてもらってもいいと思う。島の暮らしを維持するために頑張っているのだから、地域に寄り添ってもらい、協働を進めたい。

【市長】地域の人が集まって意見を出し合い、子どもの教育から老後のことまで含めて、島のあり方（アイランドプラン）をまとめるような活動をしてもらおうとバックアップしやすい。ぜひ応援したい。また、平成31年4月には救急艇を運行させたが、住民が安心して島に住み続けられるようなインフラ整備もしっかりやっていく。

【意見】家庭用電動式生ごみ処理機購入費助成金は補助金額が購入金額の2分の1で上限が2万円、90名先着順となっている。高機能の商品もある中、上限額を引き上げたり、助成対象数を増やしたりするなどして、導入を促進できないか。

【市長】健康で文化的な生活のためにも、ごみについてしっかりと取り組んでいるまちはイメージが良くなる。まずは今年度の助成の活用状況を確認して、ご提言を施策に発展できないか検討する。

【意見】現在、姫路市72校区中6校区のみが連合婦人会に所属し、存続の危機に直面している。校区婦人会は28校区に存在している。すべての校区の婦人会に連合婦人会に加入してもらい、活気ある連合婦人会を存続させたい。

【市長】現在活動していただいている方々には感謝している。参加される方がこの活動を通じて生きがいを感じられるようなものをつくれると良いと思うが、すぐに

は答えが出せない問題だ。庁内で相談して検討するが、良いアイデアがあれば提案してほしい。

【意見】新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトが減り、学費や生活費に苦しむ学生への支援は考えているか。

【市長】アルバイト収入が激減して経済的な影響が大きい学生について、住民税非課税世帯の学生には 20 万円、それ以外の学生には 10 万円が日本学生支援機構から給付される制度がある。姫路市としては、奨学金の返済に関する支援や、経済的に厳しい環境に置かれた学生への給付金の支給を進めている。新型コロナウイルス感染症の影響が半年、1 年と続いた場合、学生支援の第 2 弾、第 3 弾を検討したい。

【意見】視覚障害者が大規模災害などの緊急時に利用できる、特別な同行援護制度を独自に設けてほしい。また、視覚障害者に音声で信号機の色や現在地を知らせてくれるシグナルエイドが利用できるよう、総合福祉会館とその周辺だけでも装置を設置してほしい。障害者が住みやすいまちは健常者にとっても住みやすいまちだと思うので、密に連携して協力していきたい。

【市長】同行支援については、人材育成やボランティア団体との連携なども考えられる。また、シグナルエイドについては、現在 ICT がどんどん進んでいることから、ICT を活用した誘導なども調査し、検討したい。また、密に連携するためにも、本市の障害者雇用を継続し、障害者福祉を一緒に考えていきたい。

【意見】介護士不足とよく耳にするが、姫路市もそうなのか。重労働であることや賃金にも関係していると思うが、姫路市としての対策を聞かせてほしい。

【市長】市としては、UIJ ターン等により市内の介護サービス事業所で働く人への支援や、高校生等に介護の仕事のやりがいなどを知ってもらうためのインターンシップなどにより支援していきたい。

【意見】道の駅をつくる予定はあるのか。道の駅は農産物販売だけでなく、地元の情報発信の場になればいいと思うがどうか。

【市長】道の駅には国土交通省が登録する道の駅や、民間の方々が運営する道の駅的な施設などがあり、地域のニーズにあわせて整備したいと考えている。道の駅の機能としては、農産物販売だけでなく、防災拠点となりうる「防災道の駅」的な施設も検討材料となるものであり、人と人とが交流するまちづくりの拠点と

なるものにしたいと考えている。

【意見】 中心市街地の活力が失われつつある。まちなかへの出店や事業所移転、まちなか居住の推進、民間事業者と連携した公共交通の利便性の向上など、具体的な施策を分かりやすく推進してほしい。また、姫路城と中心市街地は一体的な観光資源である。観光振興と中心市街地活性化について、戦略レベルで緊密な連携を取り、来訪者にとって魅力的な観光エリアの形成を進めてほしい。また、より広域に連携して兵庫県の観光振興にも取り組んでほしい。

【市長】 姫路城と姫路駅の間の整備はずいぶん進んでおり、歩くというキーワードで言えば姫路のまちづくりは成功している。しかしながら景観など内在する問題もある。これからのまちづくりは、地域の方々がもっとまちづくりに参加するという機運を高めなければ進まないと思う。観光についてはもっと主体的に動けるようDMOの設立に向けて準備をしている。この動きが活発になることで、住んで楽しいまちづくりにつながるのではないかと考えている。一方で、まちなか居住を進めることは、それ以外の地域の人口減少にもつながりかねないことから、まちの魅力向上のためには、中心市街地のコンパクトシティ化だけではいけない。姫路は新幹線が停まる交通結節点であるという強みを生かし、在来線等を利用した広域観光プランも考えていきたい。

【意見】 私は、観光の新しい選択肢になればと、皮革製品の販売と制作体験ができる拠点を構え、地場産業と観光をつなげる事業を始めた。2年前には放課後ボックスという小学生対象の事業を行ったほか、姫路駅西地区まちづくり協議会や播磨ひとづくりコンソーシアムなどさまざまな活動にも参加している。姫路にも活発に活動する若者がいることを知ってもらい、例えば、姫路の若者観光大使として、今後、自分たちをもっと活用してほしいと思う。市と協力して何かできたらと思う。

【市長】 このような活動をされていることを、本当に心強く感じている。仲間を集めてわくわくするイベントを開催してほしい。おもてなしは、市民が姫路の奥深い魅力をアピールし、喜んでもらうという動きがないとだめだ。ぜひ、こういうことをやりたいという提案をどんどんしてほしい。その熱気を広げてもらうことがまちの活性化につながるので、頑張してほしい。

【意見】 マチヅカイ大学などの勉強会に参加してきたが、若者がアイデアを実現するためには資金やノウハウが不足していて難しい部分がある。若者の小規模なビジ

ネスを支援することが大事だと思うがどうか。

【市長】地域に溶け込んでさまざまな活動をされている方のネットワークなどに対して、クラウドファンディングなどの方法で資金を集め、地域活性化に取り組んでももらうことも考えられる。

【意見】まちを一体的に感じるためには全体を把握する視点が必要である。姫路城を中心に、山や海、島など魅力ある各地域があることを可視化するため、姫路特産の富栖杉を使って、市民みんなでまちの模型をつくる取り組みをしてはどうか。

【市長】模型があると、地域の役割やコミュニティの目指すべき方向性が分かって良いかもしれない。

【意見】地域のサードプレイス（自宅や職場以外の場所）を活用し、自治会にある程度権限を委ねながら、市から専門家を派遣して、その地域をどうしていくかということを考えるような取り組みをしてはどうか。

【市長】公共施設のあり方を検討している。サードプレイスとして公民館のほか、図書館の分館が14あるので、そういうところに子どもからお年寄りまでが何か一つのテーマを考えるような取り組みも考えられる。

【意見】市外の友人から、姫路はガラが悪いと思っていたとよく言われる。また、駅前での客引き行為がしつこい。

【市長】市政ふれあいメールなどでも客引きの件は確認している。ガラが悪いというイメージは過去の風評が今も残っているということだと思う。市民みんなで明るいまちのイメージを広げなければならない。

【意見】引きこもりの少年や学校へ通えない人の支援活動を行っているが、学校で個別にカウンセリングが受けられる機会を作ってあげるともう少し良くなるのではないかと感じている。

【市長】中学生や高校生が悩みをすぐに相談できる体制は非常に大切である。スクールカウンセラーの配置は県の人事であり、配分が少ないことは認識している。学校園は必ず地域と共にあるので、地域の人との協力を得られるような、地域に開かれた学校園となるような規制緩和があっても良いのではないかと思う。そのような仕組みができれば支援できるのではないか。今活動されている現場から、さまざまな人を巻き込んで大きな動きにしてほしい。

【意見】 観光ボランティアガイドをしている。観光客を案内しているときに映画等の撮影に遭遇したが、撮影中であることが分からず、観光客の声がうるさいと叱責されたことがある。今後も撮影等はあると思うので、撮影中であることが分かる看板を立てるなど工夫をしてもらいたい。

【市長】 観光のおもてなしも撮影も大切なので、観光客のいない早朝や夜間に撮影してもらったり、看板を持つボランティアを募ったりして、映画自体にも興味を持ってもらえるよう工夫を考えたい。